

# 活動報告

第 10 回 日本臨床歯科学会 大阪支部 技工士部会 2021 年 6 月 2 日

2021 年 6 月 2 日第 10 回日本臨床歯科学会 大阪支部 技工士部会が ZOOM にて開催された。

今回は、神戸市奥田歯科医院勤務の歯科技工士 伊藤彰規氏による会員発表で、ディスカッション形式にて行われた。

演題： 【咬合再構成における前歯部審美】

～埋入条件の異なった前歯部インプラント上部構造製作の比較・考察を中心に～

演者：伊藤 彰規(医療法人社団奥田歯科医院)

座長：上原 芳樹(技工士部会執行部)

本症例は、咬合再構成症例を基に臼歯部で咬頭嵌合位の安定を計った上で、上顎左右側切歯欠損に対してそれぞれインプラント治療を行った症例で、歯槽堤形態異常を伴う熟成側への埋入と、保存不能な歯牙に結合組織移植を併用した抜歯即時埋入(ソケット シールドテクニック)という左右異なる埋入条件でのサブジンジバルカントウアの形態を含む前歯部審美インプラント補綴マネージメントの考察を中心とした発表であった。

上顎6前歯の形態とジンジバルレベルの連続性が獲得され審美性と清掃性の両立が達成された症例で、歯科医師と歯科技工士がコンセプトを共有し同じゴールに向かってそれぞれのパートを担うというチーム医療の本質を体感できる内容であり視聴された会員歯科技工士にとって有意義な時間となった。

発表後の質疑応答・ディスカッションでは座長の上原芳樹氏の進行のもと担当医によるインプラント周囲組織の環境維持と環境改善の術式の説明や米澤 大地支部長から『前歯部インプラントの粘膜貫通部においては、歯肉のリセッションに対してフィクスチャーからの立ちあがりがいきなり大きくなるチタンベースよりもカスタムチタンベースで対応する方が望ましい。』というアドバイスおよび演者への激励の言葉もいただき発表者にとっても有意義であった。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、テクニシャンミーティングとしては初の Web 開催であり平日の 20:00 時からにも関わらず参加者 80 名以上の会員の方々に参加いただき盛況であった。

今後も執行部一同、会員の皆様と共に学べる会にしていきたい。

日本臨床歯科学会大阪支部技工士部会 執行部 青木 健治  
日本臨床歯科学会大阪支部技工士部会 統括理事 藤本 光治



